

高齢者乳がん

2024.8



◎乳がんは今や、日本人女性の9人に1人が罹るとされ、女性のがんの一位となっています。年齢では40代から60代に多く発見されますが、高齢者でも例外なく見られます。当地域では高齢者が多いこともあって80代以降でも検診で発見されたり、無症状で、偶然、CT検査などで発見されることも多くなっています。

◎高齢者であっても治療の基本は手術です。日本乳癌学会の「乳癌診療ガイドライン」でも「高齢者の乳がんに対しても手術療法は勧められるか？」との問いに対して、「手術に耐え得る健康状態であれば、高齢者の乳がんに対しても手術療法を行うことが標準治療である」と結論づけています。現在行っている手術法では、乳房の一部または全部を切除しても術後生活は術前と全く変わりなく過ごすことができます。

◎手術は、ADL、認知機能、精神状態、支援などの社会的環境、老衰など加齢に伴う身体活動の低下などに加えて、本人がどうしたいのか、どう生きたいのかによって選択されます。

◎進行、転移、再発乳がんでも手術によって局所がよくコントロールされる予測がたつ場合は、年齢に関係なく手術を勧めます。これは、局所のがんがそのまま進行すると悲惨な最期を迎えることになるからです。

◎乳がんは、術前、術後の治療の必要性を判断するうえで、採取した組織の細胞レベル、遺伝子レベルでの組織検査を行い、がんのタイプを四つのサブタイプに分類します。それぞれのタイプに応じて、ホルモン療法（抗女性ホルモン療法）、分子標的療法、化学療法（抗がん剤）などから適切な治療を組み合わせ治療していきます。抗がん剤治療は、以前よりも効果が大きく副作用の少ない治療になっています。

◎高齢者でも、術後の薬物療法が必要なことがあります。代謝能力の低下から薬の量を調整するなど、個々に合わせた対応が必要になっています。早期に発見し手術だけで済むように検診を受けましょう。

◎金山病院でも乳がんの診断から治療まで年齢に関係なく対応し、皆様のご要望にお応えしています。

下呂市立金山病院 乳腺外科 古田智彦